

## 世界に提案した 住空間の魅力を広げる 新しい照明デザイン

「ゲスト」

深澤直人氏  
プロダクトデザイナー

「聞き手」

栗山 幸子 パナソニック電工株式会社

パナソニック電工が開発した「MODIFY」は、住宅照明の定番の形を継承しながら現代のライフスタイル、住環境に適合させた新しいあかりの提案です。国際家具見本市「ミラノサローネ2009」でも、「MODIFY」が広げた住宅照明の可能性について、世界からデザイン性と最新のテクノロジーが高い評価を受けました。「MODIFY」が広げた住宅照明の可能性について、デザイナー・深澤をされたプロダクトデザイナーの深澤直人氏に、パナソニック電工インテリア照明事業部の栗山幸子がうかがいました。

### 定番に最新テクノロジー搭載 住宅照明が広げる豊かな生活

栗山 深澤さんとパナソニック電工が共同で開発を進めてきた住宅照明シリーズ「MODIFY」が今年4月に発売され、大変好評をいただいています。MODIFYは照明の原形を追求して生まれた「定番」とも言える照明ですが、とても新鮮な印象を受けます。深澤 選択肢があまりに多くなると、本来に必要なものがわからなくなつて混乱を招きます。本来デザインとは、人間が過去に経験した記憶と密接に結びついています。経験を抜きにして全く新しいデザインをつくつても、現在の生活には馴染みにくいのではないのでしょうか。

そこで、今回の開発ではまず照明の「アーキタイプ」(※1)を探し、「定番」となる形を探ることから始めました。この原形に最新のテクノロジーを融合させ、誕生させたのがMODIFYです。

栗山 その結果、MODIFYの原形は球(SPHERE スフィア)、半球(DOME ドーム)、円錐台(BUCKLE T バケット)の3つの形にまとめられました。パルクボールプレミア蛍光灯やスパイラルバケット蛍光灯と同時に、LED光源を用いたことで、環境省エネに配慮した形にもなりました。

深澤 まだ、住宅のLED照明は新しいので、その価値を実感していない人が多いのではないのでしょうか。あかりはあまりに身近な存在なので、普段それほど意識して使うことはありません。しかし最近では、あかりが持つリラックス効果などが知られるようになり、「自分に合うあかり」を取り入れる傾向が増えてきているようです。あかりには姿のない光をコントロールして空間を演出し、住まいのオブジェとしての役割も期待されるようになりました。以前は、照明にこだわりを持つ人は少数でしたが、これからは、イスやダイニングテーブルを選ぶのと同じように誰もが照明を選ぶ時代になってくると思います。

その中で長寿命、コンパクトなLED照明は、これまで使えなかった部分にも使える特長が活かされて様々な製品が考えられていくでしょう。こうした新しいテクノロジーをユーザーに浸透させるには、新しいデザイン表現が必要なのですが、毎年新しいデザインを提案するのではなく、本当に「必要」と思われる生活者のニーズを表現していくことで定着していくはずだと思います。

### 照明は空間の「花」 細部の配慮が理想の空間を創造

栗山 住まいのあかりが、ライフスタイルの多様化や住環境の変化で大きく変わっています。今までは、大きな照明で明るくという「一室一灯」が住宅照明の基本でした。しかし、これからは必要なあかりを必要とするところにだけ灯す「一室複数灯」が求められると思います。パナソニック電工は、これをシンフォニーライティングと呼んでおすすめています。

MODIFY



写真上／多灯吊りのMODIFY (SPHERE) がダイニングテーブルを落ち着く雰囲気に演出。  
写真中／樹脂カバーを使用しているため、不意な衝撃が加わっても安心。  
写真下／間接照明にMODIFYを組み合わせることで、控えめでありながらあかりの存在感を感じる空間に。



※1 アーキタイプ  
分析心理学用語で、「典型・原形」と訳される。民族や国家を越えて人類が共有するイメージのことで、このイメージを生み出す心の層を集合的無意識という。  
参考文献「臨床心理学事典」

(写真左より) プロダクトデザイナー 深澤直人氏  
パナソニック電工 栗山幸子



深澤 まず、「一室複数灯」で背景となる小さなライトを備えたら、今度はそこにシャンデリアのような象徴的な大きな照明も欲しくなりますね。そういう照明は「花」だと考えています。空間に「花を活ける」感覚で、どんな花がふさわしいかを考えてみると、私たちの生活習慣では、それほど強い花はいらないのではないのでしょうか。マーガレットのように控えてめで可憐な照明ならば、どんな住空間にも調和するはずです。次にどんな照明を置けばよいか、必要に応じてコーディネートが可能です。

栗山 MODIFYはとてもシンプルで照明にあまり興味のない方でも見た瞬間「あ、こんな照明が欲しかった」とおっしゃいます。結果的にクラシックでもナチュラルでも、様々な空間にコーディネートが可能になりました。でも、「花」灯具が美しくあるためには、まず、「花瓶」フランチがしっかりと美しいことが前提ですね。MODIFYは、テクスチャーにこだわり、細部の精度にこだわりました。例えば、SPHERE(スフィア)には表面をマット塗装した硬化樹脂を用いて、ガラスのような質感を持ちながら、全体が丸く光って白熱灯のような暖かい光となるように。DOME(ドーム)やBUCKET(バケット)には下面乳白カバーを採用して不快なまぶしさを抑え、目に優しい配慮をしています。

深澤 「センスのいい定番」となるためにはケーブルを細くする、内側に影をつけないなど細かい部分の修正が重要なのです。誰もがいいと思う形は、修正すべき破綻部分も皆が共通して思い描いているはず。こうした細かい修正を加えることで、どんな空間にも自由にコーディネートできる形、質感を実現できるのです。また、これまで似たような商品もありましたが、素材がガラスになつていて、衝撃を受けると割れる危険がありました。MODIFYは、樹脂カバーを使用することで、器具同士がぶつかっても割れないよう安全性に配慮した点も大きな特長です。

栗山 日本は地震が多い国ですが、こうした安全性の確保で、近接した多灯吊りも可能になりました。先ほどの「花を活ける」感覚で、一灯で、並べて、点在させて、など豊かな空間が創れるのではないのでしょうか。光によつて空間のあり方、建築の設計も変わってきます。

## 陰影あるライティングが建築素材の選び方を変える

深澤 パナソニック電工のHomeArchi(ホームアーキ)は、まさに光と建築がどうあるべきかを提案している住宅照明です。複数のあかりを巧みに組み合わせることで、生活シーンに応じた空間を演出できるのも大きな魅力です。

栗山 HomeArchiは「魅せるあかり」と「主張しないデザイン」を徹底して追求し生まれました。豊かな陰影が心地よいライティングです。

深澤 陰影のあるライティングによつて、空間に暗い層が生じて、建築のデザイン性を引き出し、より空間の表情を豊かに表現します。

これまで、明るいことに人間は当たり前になり過ぎていました。暗い空間が生じることで、人間の感受性も深まるのではないのでしょうか。豊かな空間は同じ時間を過ごすにも価値を生じます。

住宅の建て方も照明との関係性で変わってきます。

壁紙に光がどうあたるか、床材はどんな色で照らされるかなど、光と関係した中で、建築素材を選ぶ必要性が出てきます。住宅をつくる側も、設計段階で住まい手にあかりを説明する必要があります。

栗山 建築のラインもあかりがどう照らすかによつて変わつて見えます。余計な凹凸部分をなくし、こだわるべき部分をはつきり活かした方がいいですね。

深澤 余計なものをなくすことは、以前、バスプロジェクターU(イーユ)の時も念頭に置きました。まず「スミとフチ」を整えること。空間の構成の無駄を



コンセプトを「光の森」としたミラノサローネ 2009の空間展示。



HomeArchiの陰影あるライティングが建築デザインの魅力を引き出す。

なくし、簡潔であることが、破綻部分を修正する大前提です。これはデザインでも建築でも同様だと思います。

## ミラノサローネで表現日本のあかりの原風景

栗山 今年4月にイタリアで開催されたミラノサローネの空間展示でもMODIFYは世界中から注目されてきましたね。光の見せ方が非常に日本的だという印象を持たれた方が多かつたようです。

深澤 ミラノサローネでは、MODIFYとLED照明が放つやわらかな光が響き合い、空間に安らぎをつくり出しました。一番理想として見せたかった光が実現したと思います。SPHEREなどはケーブルが細く、

空間に同化していたので、丸い月や光の円盤が空間に浮いていると驚いた方も多かつたようです。

栗山 日本人の心の中にあるあかりの原風景のようなものかもしれませんね。

深澤 外国の方は、日本のモノづくりの質の高さに驚かれるようです。特殊なことではなく、日本人の日常にあるモノづくりの精神だと思います。MODIFYは住宅用照明器具として開発されたものですが、質が整っていることで公共空間や店舗でも使える定番照明となることでしょう。

栗山 そうした人々の心の中にある日常の可能性をデザインで引き出したのが「21\_21 DESIGN SIGHT」(※2)なのでしょう。

深澤 現在、開催中のプログラムは、「THE OUTLINE 見えていない輪郭」展は、人々の無意識の根底にあるものがどうやってカタチになっているのかを表現する企画です。MODIFYをはじめ、これまで、パナソニック電工と協力して開発したアラウノやイーユなども写真と一緒に展示しています。これらのデザインはすべて、私自身が作り上げたものではなく、人々の意識の根底にあるものを掘り出して現実に表したもののなのです。

栗山 本日はありがとうございました。



### 深澤 直人氏

ふかさわ なおと ●プロダクトデザイナー。2003年に独立し、Naoto Fukasawa Design 設立。国内外の大手メーカーのデザインを多数手がけ、受賞歴は60賞を超え、2007年ロイヤルデザイナーフォー・インダストリー(英国王室芸術協会)の称号を授与される。

21\_21 DESIGN SIGHT 企画展

## 「THE OUTLINE 見えていない輪郭」

深澤直人氏・写真家藤井保氏の展覧会を開催中。昨年から雑誌モダンリビングに掲載された、深澤氏デザインのプロダクトとその写真を展示。

◎開催場所：21\_21 DESIGN SIGHT (六本木ミッドタウン)

◎開催期間：2010年1月31日(日)まで

◎出展：置き浴槽/i-U 照明器具/MODIFY ドライヤー/EH5441 キッチン/LIVING STATION トイレ/アラウノ

### パナソニックリビングショールーム 東京で、ミラノサローネの展示空間を期間限定で再現

パナソニック電工では、今年のイタリア・ミラノサローネ期間中に展示した空間をパナソニックリビングショールーム 東京で、再現展示を行っています。会場はLEDをはじめ住宅用照明器具「MODIFY」シリーズや新コンセプトのチェアで構成。当社の「デザイン」と「エコ・快適技術」が調和した空間をご体感いただけます。

◎開催場所：1階 コミュニケーションエリア

◎開催期間：2010年1月31日(日)まで

◎開催時間：10時~18時

◎休館日：年末年始

詳しくはこちらへ <http://panasonic-denko.co.jp/corp/news/0909/0909-2.htm>

※2 21\_21 DESIGN SIGHT 六本木ミッドタウン内にあるデザインのリサーチセンター。日常に潜む可能性をデザインという行為によって引き出すことを理念とし、年2回定期的に企画展を開催。